

那覇市在宅医療・介護連携推進事業 在宅医療同行訪問研修報告



氏 名：神山 馨（看護師）
所属施設：那覇市立病院

分 野	訪問看護
実施日時	令和7年9月4日（木） 9時00分～12時00分
研 修 先	訪問看護ステーション まーる
実施報告	<p>2件の訪問看護を同行しました。 1件目の親子の訪問では、介入の困難と継続していくための信頼形成の難しさがありました。</p> <p>母親の特性として、書類が苦手な手続きが困難、病院と違い治療している訳ではないので、生活しているという意識を持つことが重要であり、長く続く関係性のためには母親の特性、家族関係の把握が必要。 家族関係の希薄や手助けの困難な関係であれば孤立するリスクが高くなる。</p> <p>必要な支援と社会とのつながりを持つための小児デイサービスの利用や訪問看護の必要性を学びました。 その中で生活していて小児や母親に問題があるが、介入すると信頼関係が崩れ、関係が断絶することにより小児への影響がある。</p> <p>小児のケアと母親とのコミュニケーションを取りながら、内服と通院を確実にできる関わりを持つことが重要であると学びました。</p> <p>2件目の認知症の独居の高齢男性の訪問では、冷蔵庫内の賞味期限が切れた卵を廃棄している場面や一包化による確実な内服、飲み忘れがあっても、言葉を選びながら指摘し、再度配薬していく場面、家族の話しを聞く中で被害妄想がある場面、2つの場面から認知症の症状を捉えながら、本人にとって危険が無い状況に近づけていくための言動や行動に注意していく必要があることを学びました。</p>

研修を終えて

研修を終えて、訪問看護の中で信頼関係の形成に向けたコミュニケーションの取り方、特性に合わせた関わり方を考え実践していく必要がある。

課題として、急病センターでは患者さんと医療関係者が関わる起点となるため、信頼関係の形成をしていくために言動や態度を注意していくことが必要となる。

また、患者さんがどのような社会的なサービスの利用があるか、帰宅する前に地域への連携していく方法、訪問看護やケアマネジャーと連絡し、帰宅するときでも情報共有を積極的に行なっていくことが課題となる。